

視覚障害者コーチ養成プログラムの効果

松永 秀夫（日本視覚障害者コーチ協会・新潟市障害者生活支援センター）

小池 恭子（日本視覚障害者コーチ協会・名古屋ライトハウス
名古屋盲人情報文化センター）

久保田道子（日本視覚障害者コーチ協会・(N) 静岡県補助犬支援センター）

石田奈央子（日本視覚障害者コーチ協会）

小野 眞史（日本視覚障害者コーチ協会・日本医科大学眼科）

1. プロジェクト設立と目的

(1) 経緯

視覚障害者コーチ養成プロジェクト「アリスプロジェクト」は、盲導犬のパピーウォーカーをしていたプロコーチと一人の視覚障害者との出会いを機縁として、2005年に発足した。「アリス」とは盲導犬の名前である。

(2) 目的

プロジェクト設立の目的は、以下の2点である。

- ・視覚障害者の新たな職域の開発
- ・視覚障害者の社会参加の促進とQOLの向上

当初は、団体、プログラム名を「アリスプロジェクト」と称していたが、現在は団体名を「日本視覚障害者コーチ協会（Japan blind coach association：略称JBCA）」、コーチ養成プログラム名を「アリスプロジェクト・トレーニング：略称APT」と名称を変更している。以下、本文では、団体名をJBCA、コーチ養成プログラムをAPTと記す。

2. コーチングとは

(1) アメリカで広まったコーチング

コーチングとは、90年代にアメリカから広まったコミュニケーション技術である。その目的は、その人らしい生き方や目標達成をサポートすることにある。

(2) なぜ視覚障害者がコーチングを学ぶのか

コーチングはクライアント（依頼者）の話し

耳を傾ける仕事であり、「見る」ことよりも「聞き取る力」「心で感じること」を要求される。また、電話で行なう場合が多いことも外出の困難というハンディの軽減につながる。こうした点から、コーチングは視覚障害者にとっての新たな職域の可能性を秘めていると言える。

(3) JBCAのコーチングの特徴

- ・クライアントのそのままを認め、信頼する
- ・言葉の奥にある気持ちや思いをさく
- ・クライアントやコーチのあり方や生き方を大事にする
- ・クライアントがクライアントを理解するのをサポートする

3. JBCAの沿革

以下に概略を示す。

2005年 4月	「アリスプロジェクト（APT）」設立
7月	コーチング勉強会を開催（22回）
2006年 12月	法人化のための勉強会開催
2007年 2月～ 12月	第1期コーチ育成学習プログラム開講（毎週月曜日、24科目）
9月～ 11月	毎月1回「秋のコーチング体験会」開催
2008年 1月～ 12月	第2期コーチ育成プログラム開講（毎週火曜日、24科目）
7月～ 9月	毎月1回「コーチング体験会」開催

10月	「はじめてのコーチング」に講師として参加 (NPO 法人静岡県補助犬支援センター主催)
2009年1月～12月	第3期コーチ育成学習プログラム開講 (毎週月曜日、24科目)
5月～7月	体験会開催 (大阪、東京、新潟)
2010年1月～	第4期コーチ育成学習プログラム開講 (毎週火曜日24科目)
2月	日本視覚障害者コーチ協会コーチ大会開催 (名古屋)
7月～10月	体験会開催 (大阪、神奈川、愛媛)
9月	第19回視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 東海
11月	「コーチングフェスタ 2010」に参加予定 (東京)

11. メタファー
 12. ヴィジュアルライゼーション (応用編)
 13. コーチングの基本
 14. インテンション
 15. 健康
 16. 関係性
 17. 仕事
 18. お金
 19. 家族
 20. ライフスタイル
 21. 自己基盤
 22. 視覚障害
 23. コーチングセッション
 24. コーチとして生きる (特別クラス)
- 組織内コーチとコーチング研修

4. APT における指導の方法

(1) カリキュラム

APT は、以下に示すとおり、24 のタイトルで校正され、年間で計 48 回の講習が実施される。指導には ICF (国際コーチ連盟) 等の認定資格を持つプロコーチと、JBCA の認定資格を得たコーチが、ボランティアであたっている。

修了者には、終了証が授与される。また、終了後の特別練習クラス (無料) を受講し、コーチングセッションを規定時間以上実施した者は、認定試験を受けることができる。合格者には、認定証が授与される。

(基礎編)

1. 信頼、
2. Being (ビーイング)
3. 聴く
4. 質問
5. コーチをはじめ
6. 学び
7. 認める
8. 強み
9. メッセージ
10. フィードバック

(2) 視覚障害者が学びやすい

トレーニングの方法

年間を通しての定期講習、随時開催の補習、特別練習クラス等は、NTT の電話会議システムや、スカイプにより実施され、自宅にいながらの学習を可能にしている。

また、使用するテキストや資料は、CD などの録音媒体で提供されるほか、電子メールでのテキストデータの配信、インターネットからの録音データの配信などを実施し、「音声で学ぶ」環境を整えている。

受講者の中には、PC や録音媒体の扱いに不慣れな者もいるが、指導者や、受講者同士のサポートにより、フォローがされている。

5. 受講者の実績と活動状況

2010 年 9 月現在、APT の過程を修了した者は 29 名で、そのうち 13 名が協会認定コーチとなっている。2010 年 1 月から、第四期生のトレーニングが開始され、5 名が研修中である。修了者の主な活動状況は、以下のとおりである。

- ・有料クライアントをもちプロコーチとして活動
- ・相談事業に従事する者が、当事者にコーチン

グを活かし対応

- ・一般企業に所属する者が部下などとの人間関係に活用
- ・地域でコーチングサロンを開催し、定期的な活動
- ・キッズコーチング、子育てコーチングのグループを立ち上げ活動
- ・若リーダーとして、後輩のトレーニングをおこなう

6. コーチングテーマの実例 (中途視覚障害者の葛藤等)

視覚障害者が、クライアントとしてコーチングセッションをうける際に、テーマとなった例を紹介する。

- ・白杖携帯への抵抗感
- ・視覚障害になったことを近隣に知られたくない
- ・自己肯定感が低くなり人生に価値を見出せなくなる
- ・自分は障害があるので、何をするにも常にマイナスからのスタートだと感じる
- ・対等な機会を失ったと感じる
- ・障害のない人には絶対に追いつけない、適わないと感じる

7. APT の長所

APT 修了者からは、以下のような声がある。

- ・視覚ハンディを感じさせない環境の中で、自由に楽しく学べる
- ・当事者同士ならではの深く共感できる部分がある。

- ・同じような経験を積んできたコーチから受けるコーチングは、クライアントに安心感や自己への信頼感、可能性や目標を発見するなどの効果を与える
- ・コーチングを学ぶコミュニティとして、各人が地域で活動するための拠点となる

8. 今後の展望

JBCA の活動を発展させ、コーチングを視覚障害者の新しい職域、社会参加のツールとして確立していくために、以下のような課題が挙げられる。

(1) JBCA・APT の活動の啓蒙

今後も各地で体験会などを実施し、コーチングや、APT について知ってもらう必要がある。

(2) 受講者一人一人のスキルの向上

各自が、プロコーチとして活動しうるだけの資質の向上が必要である。

(3) 資金面の課題

現在、コーチングの指導その他は、ほとんどがボランティアによって支えられているが、今後の安定的な運営のために、財政基盤の強化が必要である。

(4) クラスの時間帯の増設

現在は平日の夜間のみ、講習を実施しているが、より多様な受講者のニーズに対応できるよう、別時間帯のクラスの新設の必要性を感じる。

(5) プロとして活動する修了者の営業支援

(6) 各地域での、コーチングの普及

(7) コーチング実習システムの確立

以上